



2020年2月29日／全3枚（本状含む）
発信元：日本女子大学広報課

報道関係各位

第15回「平塚らいてう賞」贈賞式を開催

日本女子大学では本日午後、第15回「平塚らいてう賞」贈賞式を本学新泉山館大会議室（目白キャンパス）で開催し、特別を受賞した差波亜紀子（さしなみ あきこ）氏と奨励を受賞した安野直（やすの すなお）氏、五十嵐舞（いがらし まい）氏に対して、蟻川芳子選考委員長から賞状と副賞賞金を贈呈いたしました。

15回目の今回は、顕彰2件と奨励2件の応募がありました。顕彰はこれまで際立った功績をあげた方へ授与し、奨励は研究や活動を継続的に行っている方、あるいは新たに取り組みようとしている方に授与します。今回は厳正な審査の結果、特別受賞者1名（顕彰は該当者なし）、奨励受賞者2名を決定しました。選考理由につきましては平塚らいてう賞ホームページにて公開しております。 <http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/prize.html>

「平塚らいてう賞」は「平塚らいてうの記録映画を上映する会」のご芳志をもとに、人生を女性解放や世界平和のための活動に捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対して、顕彰と奨励をはかることを目的に創設されました。

募集にあたっては、本趣旨を社会に広く伝えることや今後の活動が進展することを願い、全国で研究や活動を行っている個人または団体を対象としています。

本賞は平塚らいてうの精神を受け継ぎ、平和で平等な21世紀の社会をつくるために行っております。今後もこれからの社会を担う多くの若い研究者や活動家の本賞への応募を期待しております。

お問い合わせ先

日本女子大学 入学・広報部 広報課「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176 FAX. 03-5981-3164





平塚らいてう賞選考委員長 蟻川 芳子 あいさつ

2005年に創設された平塚らいてう賞は、15回目を迎えることになりました。本賞は、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に光をあてること、ならびに若い世代に対して平塚らいてうの遺志を継承していくことを目的としています。

「元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。」とらいてうの書き出しで創刊した『青鞥』は、女性解放運動の原点となり、多くの日本女子大学校の同窓生が参加しました。らいてう自身、家政学部の3回生です。その後「新婦人協会」を組織して社会運動に乗り出し、女性の政治的権利獲得に成功しました。

私が学生の頃、「世界平和アピール7人委員会」が立ち上がり、当時本学学長の上代タノがノーベル賞受賞者の湯川秀樹、東京大学学長の茅誠司等と共にメンバーの一人に加わっているのを誇りに思っていたのですが、実は平塚らいてうもその一人であったのです。晩年は平和運動のオピニオンリーダーとして、影響を与えました。

今年は顕彰2件と奨励2件の応募がありましたが、特別1件と奨励2件を選定いたしました。次回も、本賞に相応しい研究の応募を期待いたしております。

～第15回「平塚らいてう賞」贈賞式リーフレットから～

第15回「平塚らいてう賞」＜特別＞ 受賞スピーチ(要旨)

差波亜紀子氏

研究テーマ：近代日本の女性知識層の広がり和社会的役割を明らかにすること

このたびは、先学の諸研究に多くを依拠した拙著を評価していただき、ありがとうございます。私の元来の研究分野は近代日本の経済史で、らいてうについては当初、青鞥社の発起人である女性解放運動家としか認識していませんでした。しかし妊娠中ふと手にした歴史事典か何かで、母性主義を唱えたとの記述を見つけ、女性解放運動家なのに母性主義者という点にひっかかりを感じ、興味を持ち始めました。らいてうは、人生の節目ごとに多くを感じ、周りをよく見渡して学ぶけれども、考えを決めたら他人の思惑や過去の行きがかりにとらわれず行動した魅力的な人物です。研究も数多い。しかし一方で、らいてうの全生涯を知る人は、近代史を学ぶ人の中でも、必ずしも多数派ではありません。女性史やジェンダー研究の初学者である私が、らいてうについての本を書く機会を得た理由も、そこにあると理解しています。そこでこの本では、自分がこれまで培ってきた歴史研究の方法を活かしつつ、先学に学んで、らいてうとその周囲の人びとの歩みを辿ることに努めました。この本を読んだ方々が、社会の枠組みを日々の生活の必要に応じて改めたいと願うこと、つまりは政治に関わるということが、女性のみならず誰にとっても必要な、しごくまっとうな欲求なのだとなつてくたさたら、らいてう賞の趣旨に叶うのではないかと考えます。

お問い合わせ先

日本女子大学 入学・広報部 広報課「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176 FAX. 03-5981-3164



第15回「平塚らいてう賞」＜奨励＞ 受賞スピーチ(要旨)

安野 直 氏

研究テーマ:ロシアにおける性的少数者のナラティブの構築

ーレズビアンとトランスジェンダーを中心に

この度は平塚らいてう賞(奨励)にご選出いただき望外の幸せに存じます。また、選考に携わられました皆様にも、感謝申し上げます。

私はこれまで、文学作品を中心に非規範的な性を生きる人々がどのように語られ、また自ら語るのかを通時的に追ってきました。ロシアでは、未成年者への「非伝統的性関係」の宣伝を禁止する、いわゆる同性愛宣伝禁止法が2013年に成立し、性的少数者の人権、さらにはLGBTQを扱った文化への抑圧が懸念されています。法令や統計といった公式資料や社会背景とあわせて、文学作品や個人の語りを検討することで、性的少数者の人権や表現への抑圧という今日的課題の解決に、少しでも寄与できればと思います。

一見、身近とはいえない地域・時代を対象としたロシアのセクシュアリティを研究することによって、私たちが生きる「現在」を相対化し、翻って現在の日本で起こっている性差別に対峙し得る視座を得ることができると、私は強く信じています。

五十嵐 舞 氏

研究テーマ: 9/11以降の性暴力をめぐる言説とトニ・モリスンのフェミニズム

ブラック・フェミニズムを牽引してきた黒人女性作家トニ・モリソンは、その初期から人種差別と性差別が交差する問題に取り組んできた作家です。私は、モリソン作品の分析を通じて、現代社会が抱える暴力にいかに関与するかについて研究しております。9/11以降の米国社会は、人種や性に関してそれ以前にも増して複雑な様相を見せますが、依然として白人中心であり女性蔑視である状況が存在しています。本研究は、特に性暴力の表象に注目して、9/11以降の社会の言説を踏まえながらモリソン作品を分析することによって、彼女はどのように9/11以降の人種差別と性差別に抵抗しているのかといった彼女の運動の意義と同時に、今日のフェミニズムの在り方を検討するものです。米国の黒人女性に関する研究ではありますが、抵抗の運動が地理的な隔たりを越えてつながる時代に、本研究は今日の日本における性や人種に関する平等の希求にも示唆を与えると信じております。

以上

お問い合わせ先

日本女子大学 入学・広報部 広報課「平塚らいてう賞」事務局

Tel. 03-5981-3176 FAX. 03-5981-3164

